

---

# ブルーブルーブルー

染朱

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ブルーブルーブルー

### 【Nコード】

N2303F

### 【作者名】

染朱

### 【あらすじ】

私は、生きている。私の友達も、ペットも、家族も、みんな。生きるのは、難しい。説明書も何も無い。上手く生きるにはどうすればいいんだろう？マニュアルも無いのに、どうやって上手く生きるって思えばいいんだろう？ゴハンを食べて、学校に行って、テキと戦う練習をして、誰かと話して、家に帰って眠る。私は多分、上手。対特殊生命体訓練学校に通う16歳の少女、アオイはきたるべき日に備えての毎日。架空のテキと模擬戦をし、養父のヒジカタの絵のモデルになり、友人のミサキとチャットする。少女の出会い



## プロローグ

ひよっとしたら、全部夢だったのかも。

そうだったらいいな、と思う事がしょっちゅうある。

全部、希望。

違うんだろうなって考えながらする、空想。

そうであればいい、と思う権利は誰にでもある。

世界が青い。

天井も、床も、壁も。

四方八方余すところ無く。ただ、青い。

そこに居る私以外は全部、青。私だけが、場違いみたいに。

浮いているのかな。

でも足が着いている感じだし。

もし浮いているなら、着地のことも考えなくちゃいけない。当たり前前、人間はずっと浮いている事なんて、出来ない。

少し考えたけれど、上下左右も解らないのだから、どちらであった

ても大して意味に違いは無いだろうな、というところに思い至った。

もしかすると、夢かもしれない。

それなら、さめないで欲しい。どうかこのまま、いさせてほしい。

頬っぺたに触れるのは空気だろうか？

誰かの手かもしれない。誰の？

誰かの名前が浮かんだけれど、確認する前にどこかへ沈んでしまった。

私の頭の中の、どこか。深くて遠いところ。

私自身も、よく分からないくらい。

気になったけれど、頬っぺたを触る感触が消えていたので、もう考えない事にした。

気にしてなかったけど、静かだった。何の音も聞こえない。

遠くでスプーンを落とした音だって、聞き取れそうなくらい。そ

れだけ静かだ。

私は音楽が好きだけど、静かなのも同じくらい好きだからどうってことはない。むしろ嬉しい。飛び跳ねて喜んじゃうくらい。

けれど、それはまたの機会に。

このまま、目を瞑ろう。

ここが夢だって、関係ない。

ほら、こうしていると、眠たくなってくる。夢の中でだって、眠れるのだろう。

夢だって、見れるかもしれない。

夢の中で見る夢って、どんなのだろう。昔そういつおとぎばなしを誰かに読んでもらった事があった。違う、あれは眠り続けるお姫様の話だったか。

おとぎばなしのお姫様は、いつだって決まって王子様が起こしに来てくれる。

余計なお世話だ。

どうして、邪魔するの？

お姫様はそう思ったに違いない。けれど、口から出るのは綺麗な「ありがとう」。

だって、おとぎばなしの国だ。

きれいなモノしか、出てこない。

きれいなモノしか生きられないようになってるんだろう。

どこでだって同じ。違うのはせいぜい、現実くらいなものだ。

ここはどうだろう？

一面の青。青は、きれいだ。空と同じ色。

空が決まってきれいだとは思わないけれど、多分そう思うのは、私が単純に青色が好きだから。

また目を瞑る。

真っ暗。

まぶたの裏には、何も無い。

そうしていると、色々なものが浮かび上がってくる。

何も無いほうが、まだマシな色々が。

目を開けようかと思うけれど、そうしない方がいいのかも。どうせ、こうなのだ。

現実っていつだって。

目を開けたって、閉じたって。同じくらい嫌なものがある。

それならいつそ、目なんか見えなければいい。そうも思ったけれど、そうしたらきつと別の嫌なことがあるんだろう。私たちに、逃げ場は無いんだと思う。

だからせめて今くらいは。

この青の中で、眠りたい。

夢の中で見る夢を試してみるのも、いいかもしれない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2303f/>

---

ブルーブルーブルー

2010年10月31日01時41分発行